

乗務手当廃止・能力昇給化 職務能力給化に反対します

鉄道業務ないがしろの改悪

来年からの実施を提案した人事・賃金制度改悪について、喜勢社長は「頑張った社員を評価する制度」などといいます。

しかし、その現実には重大な賃下げ攻撃であり、戦後日本的な労使関係や労働条件の全面的な解体を狙う攻撃です。

基本給や定期昇給が廃止され、「職務能力



給「能力昇給」とし、管理職の「評価」のために現場を競争させ、分断しようとしています。しかも、6段階評価で最高評

喜勢社長は人事・賃金制度について

- 「大きな眼目」は、「頑張った社員を評価する制度にすること」とし、
- 強く押し出した点として、「起業家精神を一人一人の社員が持つこと」を挙げた

※交通新聞（2025年8月7日付）のインタビューより

現実には、 乗務員にとって重大な賃下げ攻撃！

- 乗務手当を廃止し、月額で2万円（乗務員）の業務手当に改悪
- 労働時間10分延長＝月あたり3時間以上の労働時間延長→残業代減

価でも現行の昇給額に届きません。

そもそも鉄道の現業部門で「評価」しようにも、多くの場合は差などつけようがありません。結局、「鉄道ありきで考えるな」「起業家精神をもて」「金儲けのことを考えろ」ということでしかありません。

鉄道業務とそこで働く仲間をこんな形で軽んじるなど、絶対に許せません！

さらなる融合化と一体の攻撃

また、JR東は動労総連合との団体交渉でこの人事・賃金制度改悪について、「今後、さらに融合と連携を深める」「社員の担う役割がさらに多様化することを前提」「それに合わせた賃金体系」と回答しました。

この人事・賃金制度が、職名廃止や統括センター化として進められてきた業務融合化をさらに進める攻撃であることが明らかになっています。

とくに乗務手当の廃止は、「賃下げ」だけでない重大な攻撃です。乗務員の勤務をどうするかは、戦後に鉄道会社として出発する上で最大の問題だったからです。鉄道会社としてのあり方を捨て、「脱鉄道」化しようという攻撃です。

こんな施策では鉄道の安全も労働者の権利も守れません。私たちは絶対に反対です。